

小学校教科等研修講座(道徳科)

教科等指導員 笹原小学校 教諭 河崎 直子

担当指導主事：村上 大介

キーワード：道徳の教科化 授業展開 考え、議論する道徳 板書の工夫 導入とふりかえり

1 実施概要

実施月日	講師等	場所・形態	演題（またはテーマ）
1月31日（木）	笹原小学校 河崎 直子 教諭	笹原小学校 授業研究・事後研究	「少しだけなら（第4学年）」

2 主な内容

(1) 授業研究「少しだけなら(第4学年)」

① 導入

教材名である「少しだけなら」からイメージしたことを話し合わせることで、道徳的価値の方向付けを行うことをねらいとした。

② 教材の範読と登場人物やあらすじの確認

一度で内容がわかるように、聞き取りやすい速度で読み進めた。自分の生活を客観的に見つけ、現状を内省していく時間を充実させるために、教材の内容理解については簡略化を図った。

③ 中心発問

主人公の心の葛藤を自分のこととして感じとらせるために、最初に個人で考え、ワークシートに書き込ませた。その後の全体交流では、板書でイメージマップを活用し、児童の考えを視覚化した。その際、お母さんとの約束を破った主人公の罪悪感や心情に注目させた上で、約束を破ることで起こり得る実害にも目を向けさせた。「少しだけなら」という心の弱さが大きな事態を招く可能性があることに気づかせるようにした。

④ ふりかえり

導入でイメージしたことに注目させることで、自分の生活の中にも「少しだけなら」という欲求を抑えられない心があることや、自分で律する力が必要であることに気づかせるようにした。

(2) 事後研究

グループに分かれて、研究協議を行った。



3 成果と課題

(1) 成果

① 補助発問をせずに中心発問と問い返しのみで授業を行ったことで、児童が主人公の心の葛藤を自分の生活や経験と重ね合わせながら、じっくりと考えることができた。

② 板書でイメージマップを活用したことで、自分と友だちの考えのつながりが視覚化された。

(2) 課題

① 教材によっては中心発問のみで授業を展開するのではなく、補助発問も用いて学習することで考えが深まるものもある。授業実践を積み重ね、道徳の授業の幅を広げていく必要がある。

② 児童が教材の中だけで考えるのではなく、自分の生活を見つめ内省していく時間にしていく必要がある。